

子どもたちの「将来」を、災害・犯罪・交通事故から守るために  
地域や家庭とも連携した安全教育

まちの**防災・防犯・交通安全**を  
テーマとしたマップづくり

# 「ぼうさい探検隊」のすすめ方

一般社団法人 大阪損害保険代理業協会

# ● 「ぼうさい探検隊」とは？

子どもたちが楽しみながらまちにある防災・防犯・交通安全に関する施設や設備を見て回り、マップにまとめる実践的な安全教育プログラムです。

① 子どもたちがグループごとにまちを探検



② まちの「防災・防犯・交通安全に関する施設・設備」を発見



③ 探検の結果をマップにまとめる



④ マップをみんなの前で発表する

# ● 「ぼうさい探検隊」の目的

活動のきっかけ：

⇒1995年1月に発生した阪神・淡路大震災  
防災教育・地域防災の重要性が明らかに

活動の目的・期待する効果：

⇒①**楽しみながら学ぶ**ことで、身近な危険について小学生が  
**自分達の手で気づき、考えてもらう**

⇒②「ぼうさい探検隊」活動を通じて、**地域の人たちとの交流**  
が深まり、**地域への関心や愛着**を持ってもらう

●次代を担う子どもたちに向けた、肌で感じる体験的な防災・  
防犯・交通安全学習

●子どもたちから広がる、地域の防災・防犯・交通安全意識の  
向上と地域コミュニティの輪

# テーマ設定シミュレーション

皆さんの生活範囲内では、どんな危険が想定されますか？  
地域の特性とあわせて、ピックアップしてみましょう。

地域の特性・特徴

自然災害

交通事故

不審者や犯罪

# ● 「ぼうさい探検隊」指導時のポイント (引率時の協力者に依頼してほしいこと)

- 自分も楽しみながら、まちを探検しましょう。
- 子どもたちの「考えや発見を引き出す」ことに重点をおきましょう。
- 指導者だけが頑張るのではなく、グループの全員が協力しあえるような雰囲気づくりを心がけましょう。
- 探検に夢中になりすぎて子どもたちが他人の通行の邪魔になったり交通事故やケガをしたりしないように、気を配りましょう。

# ● 「ぼうさい探検隊」の すすめ方①：事前準備～出発まで

## 事前準備

- 開催日時と、探検テーマの決定
- コースの下見（15～20分程度のコース）、危険な場所のチェック
- 引率者の確保、地図・ワークシートの用意

## 当日、集合してから出発するまで

- 探検テーマ・注意点・チェック箇所の話し合い
- 各自の役割分担を話し合って決定

# まちなか探検シミュレーション①

それぞれの写真を見ながら、考えてみましょう。



---

---

---

---

---

---

---

---

# まちなか探検シミュレーション②

それぞれの写真を見ながら、考えてみましょう。



---

---

---

---

---

---

---

---

# まちなか探検シミュレーション③

それぞれの写真を見ながら、考えてみましょう。



---

---

---

---

---

---

---

---

# まちなか探検シミュレーション④

それぞれの写真を見ながら、考えてみましょう。



---

---

---

---

---

---

---

---

# まちなか探検シミュレーション⑤

それぞれの写真を見ながら、考えてみましょう。



---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

# まちなか探検シミュレーション⑥

それぞれの写真を見ながら、考えてみましょう。



---

---

---

---

---

---

---

---

# ● 「ぼうさい探検隊」の すすめ方②：まちなか探検

## まちなか探検での留意点

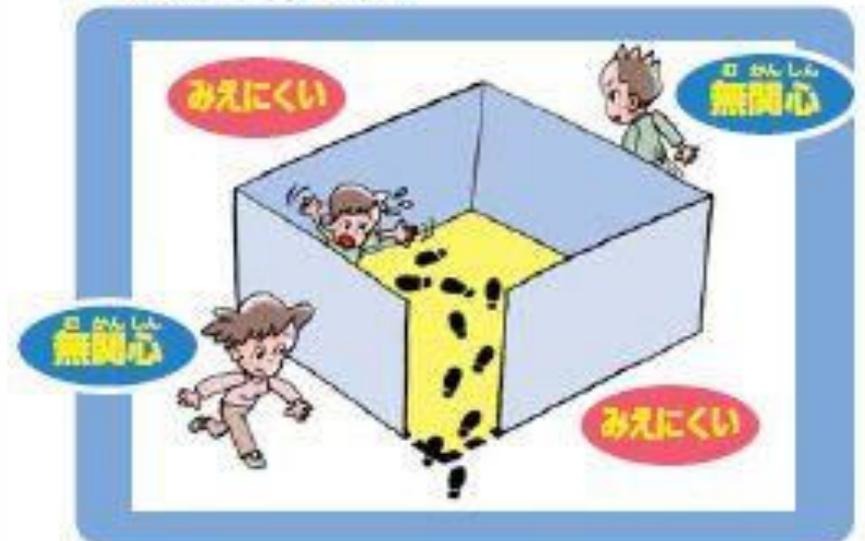
- 子どもたちが「気づく」まで、辛抱強く待つ  
時間がかかっていたら、「ヒント」を与える
- 特定の個人を誹謗・中傷したり、攻撃したり  
することのないように
- 安全な施設・設備か、危険な施設・設備かを  
子どもたち自身に考えさせる
- 子どもたちの質問を大事に  
「わからないことをそのままにしない」のが重要

# 【参考】犯罪が起こりやすい場所、危険な場所とは？

## ■入りやすい場所



## ■見えにくい場所



- 入るのにじゃまになるものがない。
- 境目がはっきりしていない。
- 出入り口（逃げ道）が多い。

- 人がほとんどいない。
- 暗い。
- 見るのに邪魔になるものがある。

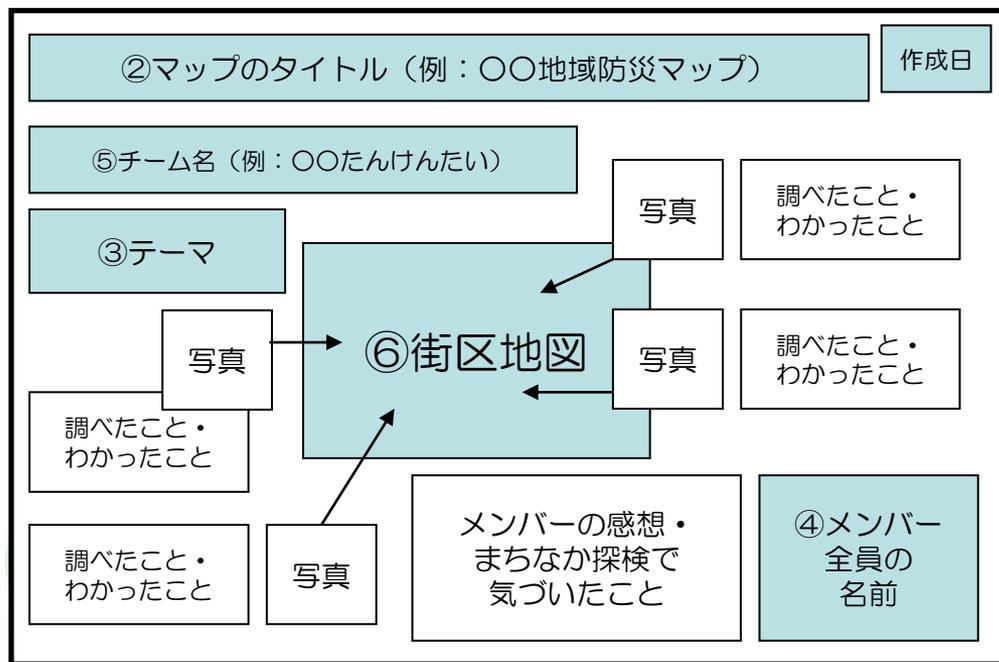
# ● 「ぼうさい探検隊」の すすめ方③：マップ作成

## マップ作成での留意点

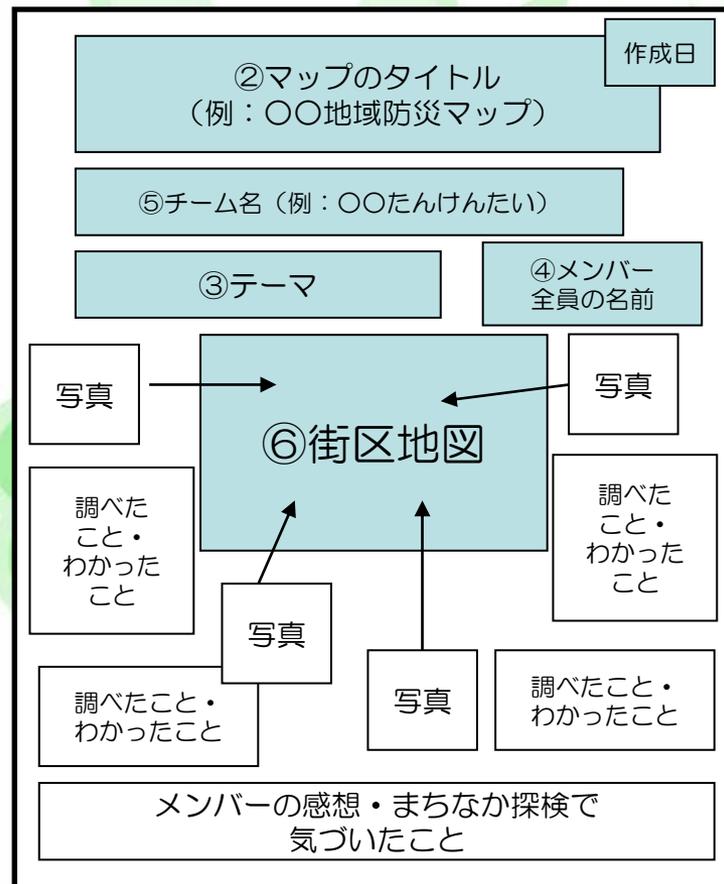
- 子どもたちの「気づき」「感想」を大事に  
（大人の視点で手を貸しすぎないように）
- 丁寧な地図、わかりやすい地図になるように  
（色分け、凡例の記載など）
- 子どもたちの疑問点を解明する時間を設ける  
「わからなかったこと」が「わかる」楽しさへ

# ●マップ作成時のレイアウト例

①マップを「ヨコ型」で作成する場合のレイアウト例



①マップを「タテ型」で作成する場合のレイアウト例







# マップの例

過去のマップコンクール  
 入選作品より  
 (テーマ：防犯)

## 地域安全マップ

1人ひとりのあいさつで、入りにくいまちづくり

### 地図の見方

- 危険なところ
- 😊 安全なところ
- 🌳 緑地のほり様
- 🏠 140軒の家

不審者マーク

厨
小
境
田
町
子
供
会

【未来へのまちづくり賞】  
 境田町子ども会

# マップの例

過去のマップコンクール  
 入選作品より  
 (テーマ：交通安全)

みつばち ぼうさい 探検隊

ぼくたち、わたしたちにできる

## 目の不自由な人への思いやり!!

もうどう犬と生活している視覚障害者へインタビュー

相馬市役所へ行ってきました

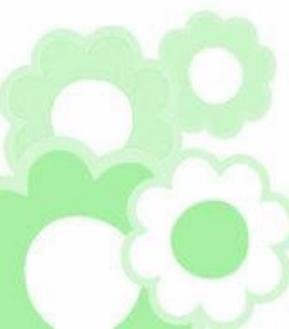
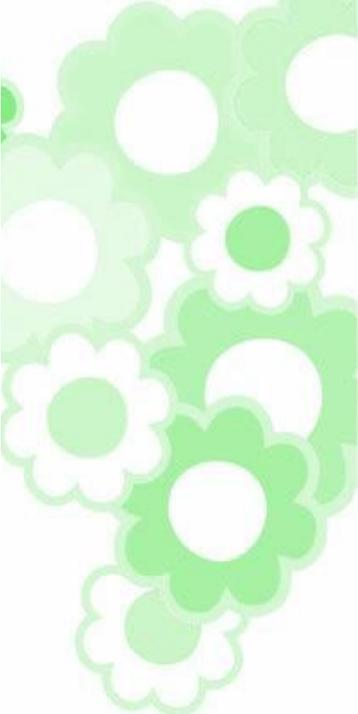
きげんなところ

分かったこと

感想・てい言

日枝 ミニ講演会 体験

【文部科学大臣賞】みつばちぼうさい探検隊



# ● 「ぼうさい探検隊」の すすめ方④：マップの発表

## 発表での留意点

- 子どもたちの「気づき」「感想」を大事に  
大人からは、発表を促すようなアドバイスを
- 他の班の発表をきちんと聞く姿勢
- 発表者だけでなくメンバー全員でフォローする

全体を通して、参加児童が「やってよかった、おもしろかった」と感じられるように

## ● 「ぼうさい探検隊」

### マップコンクールへの応募

累計（第19回までのマップコンクール）で  
21万人を超える児童から約33,000作品が応募

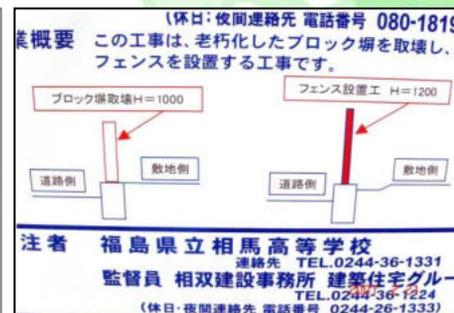
自分たちの力で作成したマップを  
「全国レベルで評価」されることにより、

- 子どもたちの「やる気」「自主性」が向上
- 単なるイベントではなく、大事な「思い出」に
- 子どもたち中心の活動 ⇒  
大人たちや地域行政にも大きな反響

# ●マップを活用した行政等への提言により、 実際に危険箇所が改善された事例

## 事例①

マップの中の「崩れそうなブロック塀があり、危ない」という児童たちの提言がもとになり、老朽化したブロック塀が行政予算によりフェンスに改修された。  
(福島県 相馬市)



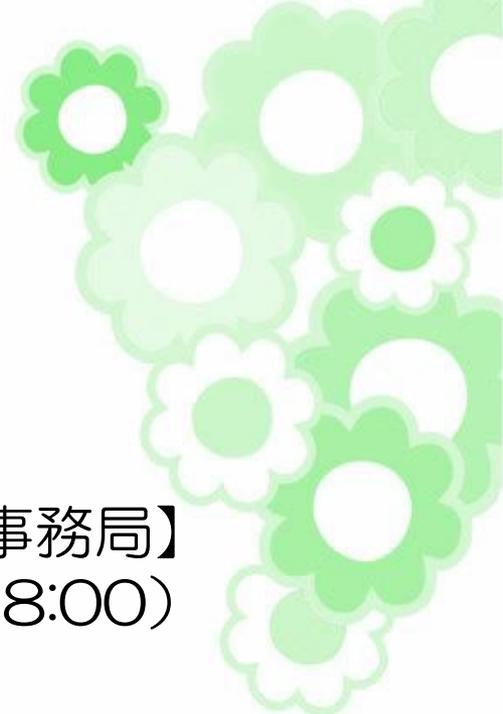
## 事例②

2007年度にマップ作成の中で発見した危険箇所について、地元の防災シンポジウムで児童たちが発表し危険を訴えたところ、鉄骨がむきだしだった橋脚がコンクリート補強された。  
(高知県 四万十町)



## 事例③

小学校の移転に伴い、保護者が主体となって「新しい通学路」を決めるためにぼうさい探検隊を実施。その過程で「通学路に街灯が少なく、秋・冬は真っ暗な道となる」ということが判明。  
マップをもとに行政に働きかけを行い、行政予算で街灯が一挙に整備された。 (茨城県 東海村)



お問い合わせは・・・

【大阪損害保険代理業協会 CSR委員会】

TEL：06-6341-6085

【小学生のぼうさい探検隊マップコンクール 事務局】

TEL：03-6625-7424（平日10:00～18:00）

E-MAIL：info@edpmap-entry.jp

